

交通の発達

利用度の高い主要路線については殆んど改修工事が行われ舗装化も漸次進捗しつゝある。

川西村政時代から姫・能山十二戸の集落との連絡交通路として架設され、しばしば災害にあつて次の表の示すように何回となく復旧・改修工事が繰返されていた姫能橋も、ようやく永久橋として安定し、左岸の接続道路の完成が計画されている。

このように町内外ともに道路交通は随分便利になつてきた。

2、交通機関

(1) 国鉄阿佐東線

国鉄牟岐線の延長を推進するため鞆奥町横山町長時代に郡内町村長・議長をもつて期成同盟会が結成され、後高知県からも加盟して阿佐東線期成同盟会に発展し、横山福蔵・富田潔・北川義男各町長らが歴代会長を勤め、五十一年の長期に亘つて陳情運動を続けてきたのであるが、ようやくにして牟岐―東洋町野根間の工事が始められ海

姫能橋改修暦		
年度	摘 要	工 費
昭8	架設・吊橋80m	70千円
29	災害復旧かけかえ	4,500
37	同上・永久橋 長108m・巾3m	7,236
43	災害復旧	4,590
45	同 上	2,400

南町四方原までの基盤路線工事がほゞ終了した現状にある。

しかし最近、運輸省が国鉄赤字路線の整理を企画し牟岐線も阿南駅以南の廃止が伝えられているが、四国唯一の循環幹線として測量が継続され「奥浦に駅を」と古くから描き続けてきた町民の夢を実現する見通しは必ずしも暗くない。

(2) 自動車の激増

空前のマイカー時代を反映し、道路網の整備されるにつれて町民の自動車保有数は次の表のように激増し、戸数一・三戸・人口十一人当り一台という普及率を示すに至つた。

昭和四十四年七月、高園中

啓谷に海部自動車学校（宮崎要二郎）が開設されて男女ともに運転免許証をうける者が増加し、町民の内で交通業に従事する者もますます多くなつてきた。下の表は四回の国

自動車保有台数		
区分	年次	
	昭40	昭45
乗 用 車	16台	47台
ト ラ ッ ク	37	110
軽 自 動 車	25	174
三 輪 車	5	9
原付自転車	284	521

交 通 業 従事者数	
年次	人 数
昭30	69人
35	110
40	114
45	160